（2018年7月改訂）

博　士　後　期　課　程

学 位 申 請 の 手 引

博士（工学）

博士（理学）

博士（学術）

鹿　児　島　大　学　大　学　院

理　工　学　研　究　科

目　　次

Ⅰ　課程修了による学位申請から学位取得まで　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１

Ⅱ　論文提出による学位申請から学位取得まで　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　５

様式（記入例）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　８

Ⅰ　課程修了による学位申請から学位取得まで

１　学位授与を申請することができる者

課程修了による学位を申請することができる者は、下記の条件のいずれかを満たしている者である。

（１）博士後期課程に３年以上在学し、１２単位以上を修得しているか又は当該年度末までに修得する見込みがあると主指導教員が認め、かつ専攻ゼミナールで学位授与申請の許可を得ていること。

（２）優れた研究業績を上げた者については、次に掲げる年数以上博士後期課程に在学し、１２単位以上を修得しているか又は修得する見込みがあると主指導教員が認め、かつ専攻ゼミナールで学位授与申請の許可を得ていること。以下この条件を満たす者を「早期修了予定者」という。

①　博士前期課程又は修士課程に２年以上在学し、当該課程を修了した者にあっては、当該課程における２年の在学期間を含み３年以上在学する者

②　博士前期課程又は修士課程において優れた業績を上げ、２年末満の在学期間で修了した者にあっては、当該課程における在学期間を含み３年以上在学する者

③　修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者が入学した場合にあっては、１年以上在学する者

（３）博士後期課程に３年以上在学し、１２単位以上を修得の上、必要な研究指導を受けて退学した者については、退学後１年を経ておらず、かつ専攻ゼミナールに相当するものが行われ、学位授与申請の許可を得ていること。以下、この条件を満たす者を「単位取得退学者」という。

２　論文の予備審査

学位授与の申請をしようとする者は、次の書類を主指導教員の承認を得て、大学院係を経由して研究科長に提出し、予備審査を受けなければならない。

（１）提出書類及び部数

① 予備審査申請書（別記様式第１号）・・・

（３）予備審査申請書類の作成要領

1）各書類共通事項

① 学位論文題目が日本語の場合は、題目の下に（　）を付して英訳を併記すること。
　また、学位論文題目が英語の場合は、同様に（　）を付して和訳を併記すること。

② 提出する書類が２部以上となるものは、複写により作成してもよい。

③ 捺印箇所には、各書類とも必要部数に同一の印鑑で直接朱肉を用いて捺印する。ただし、外国人で印鑑を所有していない場合は、署名でよいものとする。

2）予備審査申請書

別記様式第１号の記入例に準じて作成する。審査を希望する博士の専攻分野は、博士（工学）、博士（理学）、博士（学術）のいずれかとする。

3）論文目録

別記様式第２号の記入例に準じて作成すること。報告番号欄は、「理工研第　号」と記載する。
学位論文に直接関係のある学術論文を主論文とする。主論文は以下の５つに分類して記載する。

(a) 審査付きの学会誌又はこれに準ずる学術雑誌に発表した出版公表済み（掲載決定済みを含む）の原著論文

(b) 審査付きの学会誌又はこれに準ずる学術雑誌に発表した出版公表済み（掲載決定済みを含む）の Letter等

(c) full paperで審査される国際会議の Proceedings に掲載された原著論文

(d) 上記以外の出版公表済み（掲載決定済みを含む）の論文

(e) 投稿中の論文

なお、翻訳した論文は、原著論文と同じ番号にダッシュを付け、各分類のところに記載する。また各論文と学位論文における各章との関係についても記載する。

学位論文の内容とは直接関係のない内容のものであるが、学位論文審査上の参考になる学術論文を参考論文とする。参考論文は、上記 (a)、(b)、(c)、(d)、(e) の５つに分類して記載する。なお、**参考論文がない場合には「なし」**と記載する。

注）主論文が共著の場合は、次の要件を満たすこと。
① 申請者以外の共著者全員が、過去及び将来において、いかなる学位申請の主論文として使用しないものであること。
② 申請者の学位申請の主論文として使用することについて、共著者全員の承諾を得ていること。

4）学位論文の草稿

学位論文の草稿は、学位論文の申請に値する十分な内容を備えていることは云うまでもないが、詳しい内容が準備できている場合にはその原稿、又はＡ４版20枚程度で学位論文の内容を十分明らかにした（学位論文の目次、各章ごとの概要が記述された）ものとする。

① 学位論文の草稿を英文で記述しようとする場合は、指導教員に十分な指導を受けること。

② 印刷字体は、活字、タイプライター又はワードプロセッサー等による印字とすることが望ましい。
　手書きによる場合は楷書で丁寧に書くこと。

5）学位論文の要旨

学位論文の要旨は、学位論文の内容を要約して示すものである。和文及び英文の要旨を提出しなければならない。

① 和文要旨は、Ａ４版横書きとし、2,000字程度にまとめること（別記様式第３号の記入例を参照）。

② 英文要旨は、Ａ４版横書きとし、800語程度に**シングルスペース**でまとめる（別記様式第４号の記入例を参照）。

③ 図表は必要最小限にとどめ、図表、化学記号等は、明瞭に書く。

３　学位授与の申請

予備審査で学位授与の申請が許可された者は、６ヶ月以内に次の書類を主指導教員の承認を得て、大学院係を経由して研究科長に提出する。

（１）提出書類及び部数

① 学位授与申請書（別記様式第５号－Ａ又はＢ）　……　１部
② 論文目録（別記様式第２号）　……　５部
③ 学位論文（Ａ４版横書きとし、和文又は英文とする。）　……　５部
④ 学位論文の要旨(別記様式第３号及び第４号)（Ａ４版横書きとし､和文及び英文とする。）‥ 各５部
⑤ 履歴書（別記様式第６号）　……　１部
⑥ 博士論文のインターネット公表について（別紙様式１）……　１部

（備考）　(a) 記述に当たっては、「(3) 学位授与申請書類の作成要領」に従うこと。
　　(b) 学位論文は、申請時は仮綴じでもよい。

※②、③、④の書類の提出部数は５部となっていますが、大学院係に１部提出し、４部は指導教員へ提出してください。また、上記提出書類の他、学位判定委員会で回覧しますので、指定した期日までに学位論文６部（フラットファイルで綴じたもの）を大学院係へ提出してください。

（２）学位授与の申請の時期

上記書類を提出する時期は、原則として、３月修了予定者は第３年次の１２月、９月修了予定者は第３年次の６月の指定した期日までとする。ただし、早期修了予定者と３年を超えて在学する者及び単位取得退学者にあっては、原則として６月又は１２月の指定した期日までとする。

※当該年度の日程については、理工学研究科教務関係行事予定表（理工学研究科ホームページ及び掲示）を参照すること。

（３）学位授与申請書類の作成要領

1) 各書類共通事項

① 学位論文題目が日本語の場合は、題目の下に（　）を付して英訳を併記すること。
　また、学位論文題目が英語の場合は、同様に（　）を付して和訳を併記すること。
② 提出する書類が２部以上となるものは、複写により作成してもよい。
③ 捺印箇所には、各書類とも必要部数に同一の印鑑で直接朱肉を用いて捺印する。ただし、外国人で印鑑を所有していない場合は、署名でよいものとする。

2) 学位授与申請書

第３年次に在学する者と３年を超えて在学する者および早期修了予定者は別記様式第５号－Ａ、単位取得退学者は別記様式第５号－Ｂの記入例に準じて作成する。
博士の専攻分野は、博士（工学）、博士（理学）、博士（学術）のいずれかとする。

3) 論文目録

２(3)-3) の論文目録(p. 2)に基づいて作成する。

4) 学位論文

① 学位論文は、Ａ４版横書きとする。
　印刷字体は活字、タイプライター又はワードプロセッサー等による印字とすることが望ましい。
　手書きによる場合は楷書で丁寧に書くこと。
② 学位規則の一部改正に伴い、平成25年4月1日以後に博士の学位を授与された場合、学位論文の全文を原則としてインターネット（本学リポジトリ）により公表することとなった。そのため、申請者は学位論文の全文データを学位授与日の前日までに大学院係に提出しなければならない。
　提出方法等については、大学院係から別途通知される。
③ 学位論文の表紙の作成例（ 図１(p. 4) 参照 ）

5) **学位論文の要旨**

２(3)-5) 学位論文の要旨(p. 2)に基づいて作成する。

6) **履歴書**

履歴書は、別記様式第６号の記入例に準じて作成する。

① 報告番号欄は、「理工研第　号」と記載する。
② 氏名は、戸籍のとおり記載する。
③ 本籍の欄は、日本人にあっては都道府県のみ記載し、外国人にあっては国籍を記載する。
④ 現住所とは、住民票に記載されている住所をいう。団地名、宿舎名及び番号なども記載する。
⑤ 学歴欄は、原則として大学卒業以降について記載する。
⑥ 職歴欄は、常勤の職にある者は、その勤務先、職名を順を追って記載する。ただし、非常勤の職であっても特に教育・研究に関するものについては、記載することが望ましい。**職歴がない場合には、「なし」**と記載する。
⑦ 研究歴は、学位審査の参考になると思われる事項（研究課題、研修、学術調査、学術奨励金に関するものなど）について、事項別に記載する。**研究歴がない場合には、「なし」**と記載する。
⑧ 日付は、申請日とする。

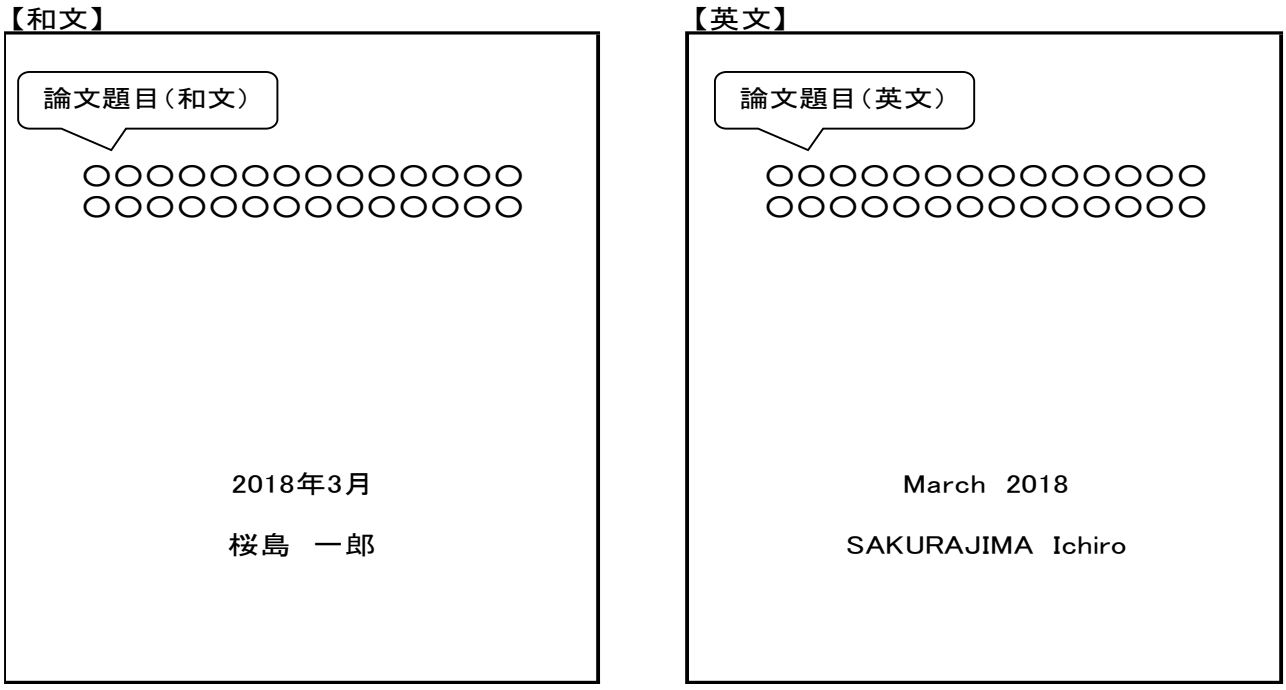

図１．学位論文の表紙の作成例

Ⅱ　論文提出による学位申請から学位取得まで

鹿児島大学学位規則第５条第２項の規定に基づき博士の学位授与の申請をしようとする場合は、「鹿児島大学大学院理工学研究科博士後期課程の学位に関する取扱内規」によるほか、この申請の手引により所定の手続きを行う。

１　学位授与を申請することができる者

・　博士後期課程に３年以上在学し、鹿児島大学大学院規則第３９条第３項に規定する単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受け退学した者。
・　大学卒業後７年以上又は本研究科若しくは他大学大学院の博士前期課程（修士課程）修了後４年以上の研究歴を有する者。
・　上記以外の者で、１０年以上の研究歴を有する者。

２　論文の予備審査

・　学位授与の申請をしようとする者は、論文内容に関連のある研究分野の研究科指導教員１名に世話教員としての承諾を得るものである。
・　申請者は、世話教員の承認を得て、次の書類を大学院係を経由して研究科長に提出し、予備審査を受けなければならない。

（１）提出書類及び部数

① 予備審査申請書（別記様式第７号）・・・

3) **論文目録**

別記様式第２号の記入例に準じて作成すること。報告番号欄は、「理工論第　　号」と記載する。学位論文に直接関係のある学術論文を主論文とする。主論文は以下の4つに分類して記載する。

(a) 審査付きの学会誌又はこれに準ずる学術雑誌に発表した出版公表済み（掲載決定済みを含む）の原著論文
(b) 審査付きの学会誌又はこれに準ずる学術雑誌に発表した出版公表済み（掲載決定済みを含む）のLetter等
(c) full paper で審査される国際会議の Proceedings に掲載された原著論文
(d) 上記以外の出版公表済み（掲載決定済みを含む）の論文

なお翻訳した論文は、原著論文と同じ番号にダッシュを付け、各分類のところに記載する。また各論文と学位論文における各章との関係についても記載すること。

学位論文の内容とは直接関係のない内容のものであるが、学位論文審査上の参考になる学術論文を参考論文とする。参考論文は、上記と同様に４つに分類して記載すること。なお、**参考論文がない場合には、「なし」**と記載する。

注）主論文が共著の場合は、次の要件を満たすこと。
①　申請者以外の共著者全員が、過去及び将来において、いかなる学位申請の主論文として使用しないものであること。
②　申請者の学位申請の主論文として使用することについて、共著者全員の承諾を得ていること。

4) **学位論文の草稿**

学位論文の草稿は、学位論文の申請に値する十分な内容を備えていることが必要である。印刷字体は、活字、タイプライター又はワードプロセッサー等による印字とすることが望ましい。手書きによる場合は楷書で丁寧に書くこと。

5) **学位論文の要旨**

学位論文の要旨は、学位の申請に値するものであることを要約して示すものである。和文及び英文の要旨を提出しなければならない。

① 和文要旨は、Ａ４版横書きとし、2,000字程度にまとめること（別記様式第３号の記入例を参照）。
② 英文要旨は、Ａ４版横書きとし、800語程度に**シングルスペース**でまとめる（別記様式第４号の記入例を参照）。
③ 図表は必要最小限にとどめ、図表、化学記号等は、明瞭に書く。

6) **履歴書**

履歴書は、別記様式第６号の記入例に準じて作成すること。

① 報告番号欄は、「理工論第　　号」と記載する。
② 氏名は、戸籍のとおり記載する。
③ 本籍の欄は、日本人にあっては都道府県のみ記載し、外国人にあっては国籍を記載する。
④ 現住所とは、住民票に記載されている住所をいう。団地名、宿舎名及び番号なども記載する。
⑤ 学歴欄は、原則として大学卒業以降について記載する。
⑥ 職歴欄は、常勤の職にある者は、その勤務先、職名を順を追って記載する。ただし、非常勤の職であっても特に教育・研究に関するものについては、記載することが望ましい。**職歴がない場合には、「なし」**と記載する。
⑦ 研究歴は、学位審査の参考になると思われる事項（研究課題、研修、学術調査、学術奨励金に関するものなど）について、事項別に記載する。**研究歴がない場合には、「なし」**と記載する。
⑧ 日付は、申請日とする。

３　学位授与の申請

予備審査で学位授与の申請が許可された者は、１年以内に次の書類を世話教員の承認を得て、大学院係を経由して研究科長に提出する。

（１）提出書類及び部数

① 学位授与申請書（別記様式第８号）　…… １部
② 論文目録（別記様式第２号）　…… ５部
③ 学位論文（Ａ４版横書きとし、和文又は英文とする。）　…… ５部
④ 学位論文の要旨(別記様式第３号及び第４号)（Ａ４版横書きとし､和文及び英文とする。）‥ 各５部
⑤ 最終学歴の卒業又は修了証明書　…… １部
⑥ 履歴書（別記様式第６号）　…… １部
⑦ 博士論文のインターネット公表について（別紙様式１）…… １部
⑧ 学位論文審査料

（備考）（a）記述に当たっては、「(3) 学位授与申請書類の作成要領」に従うこと。
（b）学位論文は、申請時は仮綴じでもよい。

※②、③、④の書類の提出部数は５部となっていますが、大学院係に１部提出し、４部は世話教員へ提出してください。また、上記提出書類の他、学位判定委員会で回覧しますので、指定した期日までに学位論文６部（フラットファイルで綴じたもの）を大学院係へ提出してください。

（２）学位授与の申請は、随時受付けるが、学位判定会議は、年４回（6、9、12、3月）開催される。

（３）学位授与申請書類作成要領

1）各書類共通事項

① 学位論文題目が日本語の場合は、題目の下に（　）を付して英訳を併記すること。
また、学位論文題目が英語の場合は、同様に（　）を付して和訳を併記すること。
② 提出する書類が２部以上となるものは、複写により作成してもよい。
③ 捺印箇所には、各書類とも必要部数に同一の印鑑で直接朱肉を用いて捺印する。ただし、外国人で印鑑を所有していない場合は、署名でよいものとする。

2）学位授与申請書

別記様式第８号の記入例に準じて作成すること。
博士の専攻分野は、博士（工学）、博士（理学）、博士（学術）のいずれかとする。

3）論文目録

２(3)-3）論文目録（p. 6）に同じ。

4）学位論文

① 学位論文は、Ａ４版横書きとする。
印刷字体は活字、タイプライター又はワードプロセッサー等による印字とすることが望ましい。
手書きによる場合は楷書で丁寧に書くこと。
② 学位規則の一部改正に伴い、平成25年4月1日以後に博士の学位を授与された場合、学位論文の全文を原則としてインターネット（本学リポジトリ）により公表することとなった。そのため、申請者は学位論文の全文データを学位授与日の前日までに大学院係に提出しなければならない。
提出方法等については、大学院係から別途通知される。
③ 学位論文の表紙の作成例（ 図１(p. 4) 参照 ）

5）学位論文の要旨

２(3)-5）学位論文の要旨（p. 6）に同じ。

6）履歴書

２(3)-6）履歴書（p. 6）に同じ。

別記様式第１号　　（　記　入　例　）

予　備　審　査　申　請　書

平成〇年〇月〇日

鹿児島大学大学院理工学研究科長　殿

鹿児島大学大学院理工学研究科博士後期課程の学位に関する取扱内規第５条第１項の規定に基づき、予備審査に必要な書類を添えて、博士（工学・理学・学術）の学位の予備審査を申請いたします。

・は選択を示し，どちらかを記載する

学位論文題目

分散並列処理システムにおける‥（日本語）‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥の研究

（ Studies on ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥(英　訳)‥in Distributed Parallel Process System ）

又は

Studies on ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥(英　語)‥in Distributed Parallel Process System

（ 分散並列処理システムにおける‥（和　訳）‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥の研究 ）

３年を越えて在学する場合には、各期に専攻ゼミナールを行うこと。また、単位取得後退学した後に、課程博士論文作成への着手の判断を行う場合は専攻ゼミナールに相当するものを行う。この場合、実施日時を事前に公表する必要はないが、博士論文予備審査申請書にその旨を明記する。

大学院理工学研究科
博士後期課程　　〇 〇 〇 〇 〇 専攻

申　請　者　桜 島　一 郎　　印

主 指 導 教 員　鹿 児 島　太 郎　　印

別記様式第２号　　（ 記　入　例 ）

論　文　目　録

※ 報　告 番　号	理工研　第　　号 または　理工論　第　　号	氏　　名	桜 島　　一 郎

学位論文

1. 題目　　分散並列処理システムにおける・・（日本語）・・・・・・・・の研究

（ Studies on ・・・・・・・・・・・・(英　訳)・・・・・・・・・・・・・・・・ Parallel Process System ）

又は

Studies on ・・・・・・・・・(英　語)・・・・・・・・・・・・・・ Parallel Process System

（ 分散並列処理システムにおける・・（和　訳）・・・・・・・・の研究 ）

2. 冊数　1

3. 主論文

(a) (1) 著　　者　桜島一郎、鹿児島太郎　　・・・・・**[(注)　全著者名を記入する。以下同様]**

論文題目　「分散並列処理システムにおける・・（日本語）・・・・・・の研究」

[西暦で記入] 0000年3月　○○○学会論文集、第80巻、第3号、pp.15-22.　(第２章)

(1')著　　者 Ichiro Sakurajima and Taro Kagoshima

論文題目　「Studies on Speeding･ (外国語) ・・・・・・・・・・・・・ Parallel Process System」

0000年2月　J.○○○○○, Vol.30, No.5, pp.30-37 (第２章)

(b) (1) 著　　者 Ichiro Sakurajima and Taro Kagoshima

論文題目　「　　英語 (外国語)　　」

○○○○○Letters, Vol.30, No.5, pp.20-21 (第５章)

(○○○○年○月○日掲載決定通知受領)

(c) (1) 著　　者 Ichiro Sakurajima, Taro Kagoshima and Jiro Satsuma

論文題目　「　　英語 (外国語)　　」

0000年2月 Proc.○○○○ (London), Vol.2, pp.10-17 (第３章)

(d) (1) 全著者名　桜島一郎、鹿児島太郎

論文題目　「　　日　本　語　　」

0000年9月　鹿児島大学工学部研究報告、第40号、pp.25-32 (第４章)

(e) (1) 著　　者　桜島一郎、鹿児島太郎

論文題目　「　　日　本　語　　」

○○○学会論文集 (投稿中、○○○年○月○日論文受付)

参考論文

(a) (1) 著　　者　薩摩次郎、鹿児島太郎、桜島一郎

論文題目　「　　日　本　語　　」

0000年5月　○○○学会論文集、第80巻、第5号、pp.36-40.

平成 ○ 年 ○ 月 ○ 日

氏　　名　　桜 島　　一 郎　　印

※は申請者記載不要

別記様式第３号－１　　（ 記　入　例 ）

学 位 論 文 の 要 旨

氏　　名	桜　島　　一　郎
学位論文題目	ニューラルネットワークを……（日　本　語）……の研究

本論文は、……
……
……をまとめたものである。

第１章は、……
……
……
……

……
……

第２章は、……
……
……

……について検討した。

第３章は、……
……
……

……の理論を実証した。

別記様式第３号－２　　（　記　　入　　例　）

第４章は、……
……
……

……について
考察した。
第５章は、……
……
……

……について
考察した。
第６章は、……
……
……

……
……
……を総括した。

別記様式第４号　　（　記　　入　　例　）

Summary of Doctoral Dissertation

Title of Doctoral Dissertation :

Stochastic Response of ・・・

別記様式第５号－Ａ　　（ 記　入　例　　課程博士用 ）

学 位 授 与 申 請 書

平成 ○ 年 ○ 月 ○ 日

鹿児島大学大学院理工学研究科長　殿

鹿児島大学学位規則第７条第２項の規定に基づき、学位論文の審査に必要な書類を添えて、博士（工学・理学・学術）の学位の授与を申請いたします。

・は選択を示し，どちらかを記載する

学位論文題目

海洋構造物の ・・・・・・・・・・・・・（日本語）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・研究

（ Dynamic　Safety ・・・・・・・・・・・(英　訳)・・・・・・・・・of　Offshore　Structure ）

又は

Dynamic　Safety ・・・・・・・・・・・(英　語)・・・・・・・・・of　Offshore　Structure

（ 海洋構造物の ・・・・・・・・・・・・・（和　訳）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・研究 ）

大学院理工学研究科
博士後期課程　　○ ○ ○ ○ ○ 専攻

申　請　者　　桜 島 一 郎　　印

主 指 導 教 員　　鹿児島 太 郎　　印

別記様式第５号－Ｂ　　（　記　入　例　単位取得退学者用　）

学 位 授 与 申 請 書

平成 ○ 年 ○ 月 ○ 日

鹿児島大学大学院理工学研究科長　殿

鹿児島大学学位規則第７条第４項の規定に基づき、学位論文の審査に必要な書類を添えて、博士（工学・理学・学術）の学位の授与を申請いたします。

・は選択を示し，どちらかを記載する

学位論文題目

超伝導薄膜に対する‥‥‥‥‥‥(日本語)‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥の観測

（ Effect of Buffer ‥‥‥‥(英　訳)‥ in Superconducting Thin Films ）

又は

Effect of Buffer ‥‥‥‥(英　語)‥ in Superconducting Thin Films

（ 超伝導薄膜に対する‥‥‥‥(和　訳)‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥の観測 ）

大学院理工学研究科
博士後期課程　　○ ○ ○ ○ ○ 専攻

申　請　者　　桜 島 一 郎　　印

主指導教員　　鹿児島 太 郎　　印

別記様式第６号　　（　記　入　例　）

履　歴　書

※報告番号	理工研第　　号　（または、理工論第　　号）		
ふりがな 氏　名 生年月日	さくらじま　いちろう 桜　島　一　郎 １９８７年１０月１２日生	性別	男・女
本　籍	鹿児島県		
住　所	〒890－0065　鹿児島市郡元一丁目21番41号		

学　歴

２０○○年　３月　○○○大学○○○学部卒業
○○○○年○○月　○○○大学大学院○○○研究科博士前期課程○○○専攻入学**又は**進学
○○○○年○○月　同上修了
○○○○年○○月　○○○大学大学院○○○○研究科博士後期課程○○専攻入学**又は**進学
○○○○年○○月　同上修了見込み**又は**同上単位取得の上退学

職　歴

２０○○年　４月　○○○○株式会社入社
○○○○年○○月　同上退職
○○○○年○○月　○○省○○○○研究所入所
現在に至る

研　究　歴

２０○○年１０月　○○○○株式会社中央研究所にて「○○○○○○の研究」に従事（○○○○年○月まで）
○○○○年○○月　○○省○○○○研究所にて「○○○○の研究」に従事
現在に至る

上記のとおり相違ありません。
平成 ○ 年 ○ 月 ○ 日

氏　名　　桜 島 一 郎　　印

※は申請者記載不要

別記様式第７号　　（　記　入　例　　論文博士用　）

予　備　審　査　申　請　書

平成 ○ 年 ○ 月 ○ 日

鹿児島大学大学院理工学研究科長　殿

鹿児島大学大学院理工学研究科博士後期課程の学位に関する取扱内規第５条第３項の規定に基づき、予備審査に必要な書類を添えて、博士（工学・理学・学術）の学位の予備審査を申請いたします。

・は選択を示し，どちらかを記載する

学位論文題目

生体活性・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・(日本語)・・・・・・・・ハイドロゲルに関する研究

(Studies on Biofunctional Hydrogels･(英　訳)・・・・・・・・with Bioactive Molecules)

又は

Studies on Biofunctional Hydrogels・・(英　語)・・・・・・・with Bioactive Molecules

(生体活性・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・(和　訳)・・・・・・・ハイドロゲルに関する研究)

申　請　者　　桜 島 一 郎　　印

世 話 教 員　　鹿児島 太 郎　　印

別記様式第８号　　（　記　入　例　　論文博士用　）

学 位 授 与 申 請 書

平成 ○ 年 ○ 月 ○ 日

鹿児島大学大学院理工学研究科長　殿

鹿児島大学学位規則第７条第３項の規定に基づき、学位論文の審査に必要な書類を添えて、博士（工学・理学・学術）の学位の授与を申請いたします。

・は選択を示し，どちらかを記載する

学位論文題目

生体活性・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・(日本語)・・・・・・・・ハイドロゲルに関する研究

(Studies on Biofunctional Hydrogels・・(英　訳)・・・・・・・・with Bioactive Molecules)

又は

Studies on Biofunctional Hydrogels・・(英　語)・・・・・・・・with Bioactive Molecules

(生体活性・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・(和　訳)・・・・・・・・ハイドロゲルに関する研究)

申　請　者　　桜 島 一 郎　　印

世 話 教 員　　鹿児島 太 郎　　印

別記様式第１６号　（早期修了を希望する場合に提出）

個　人　調　書

（平成　　年　　月　　日現在）

<table>
<tr><td>ふりがな
氏　　名</td><td colspan="2"></td><td>性
別</td><td>男
女</td><td>本 籍 地
又は国籍</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>生年月日
（年齢）</td><td colspan="3">年　　月　　日生
（　　歳）</td><td colspan="4">現住所</td></tr>
<tr><td rowspan="3">学

歴</td><td>.　　.
.　　.</td><td colspan="6"></td></tr>
<tr><td>.　　.
.　　.</td><td colspan="6"></td></tr>
<tr><td>.　　.
.　　.</td><td colspan="6"></td></tr>
<tr><td rowspan="2">職

歴</td><td>.　　.
.　　.</td><td colspan="6"></td></tr>
<tr><td>.　　.
.　　.</td><td colspan="6"></td></tr>
<tr><td colspan="2">学会活動等
（期間・
名称等）</td><td colspan="6"></td></tr>
<tr><td colspan="2">主　論　文</td><td colspan="6"></td></tr>
<tr><td colspan="2">在 学 期 間</td><td colspan="6">①（研究科入学年月）　　（修了予定年月）　　（在学年数：①－②）
平成　　年　　月 ～ 平成　　年　　月　　年　　ヶ月
②（休学期間　　.　　.　～　　.　　.　）</td></tr>
<tr><td colspan="2">修得単位数</td><td colspan="6">①　既修得単位　　単位　　②　修得予定単位　　単位</td></tr>
</table>

（注）学歴は、大学以上を記載すること。

※　主論文の別刷又はコピー（当該学会誌の編集規則等、査読付き論文であることが、判断できる書類を添付する。）

別記様式第１７号（早期修了を希望する場合に提出）

推　薦　書

平成　　年　　月　　日

鹿児島大学大学院理工学研究科長　殿

博士後期課程　　専攻　　年生
早期修了希望者

推　薦　者

推薦理由

指導教員グループ

主指導教員	印	副指導教員	印
副指導教員	印	副指導教員	印